

※ 本記事はブログ記事として提供しています。その範疇のものとして捉えて下さい。

「教科別の指導」の位置づけを明確にする

-映画『ブタがいた教室』って観たことがあります?-

¶突然ですが映画『ブタがいた教室』って観たことがありますか?YOU TUBEに予告編がありますし、330円でDLできるのですが、大阪の小学校の実話がモデルで、あるクラスで総合学習(特に「道徳」「食育」的な側面がクローズアップされていますが...)の一環として26人学級の子どもたちと、若い頃のボクにそっくりな妻夫木聰が「ブタのPちゃん」を教材にして学習を進めていく物語です(予告編だけでもオススメです)。

¶注目すべきは、「ブタ」という一つの教材(一匹の教材)を中心にして、様々な教育活動が展開されていく点です。例えば、下の枠内の通りです。



図1

☆国語科⇒ ブタのPちゃんを題材に作文を書く	☆算数科⇒ ブタのPちゃんの体重の変化をグラフ化する
☆社会科⇒ ブタの生産量の日本1~3までを調べる	☆理科⇒ ブタのウンチの科学的栄養分を知る
☆図画工作科⇒ ブタのPちゃんの家を建てる	☆体育科⇒ ブタのPちゃんとかけっこをする
☆音楽科⇒ ブタのPちゃんの歌を作る	☆家庭科⇒ ブタ料理のバリエーションと栄養素を知る

¶「ブタ」という一つの教材も、教科によっていろいろな見方や考え方できますよね。このいろいろな「見方や考え方」ができることが、新学習指導要領でとても大切にされていて、もう少し詳しく解説されています↓

「見方」=教科の知識・技能等の「キーとなる概念」

「考え方」=教科ならではの思考・判断・表現の「方法」

一気に目が白黒しますよねwww。ダイジョウブ。落ち着いて引きつければ分かります。

¶「キーとなる概念」は、算数科なら「数・図形」からの見方、国語科なら「ことば」からの見方、理科なら「生物学・科学・物理学」からの見方、社会は「歴史学・地理学・政治学」からの見方ってそんな感じ。「考え方」ってのは、算数科なら「数式化」を使う考え方とか国語科なら「読解・作文」を使う考え方、理科なら「実験検証」を使う考え方とかそんな感じ。そして、例えば小学生よりは中学生、中学生よりは高校生、高校生よりは大学生の方が『学習が進むにつれて対象への着眼点はより明確かつ多面的・多角的なものになる』とされています。要するに教科別の勉強をすればするほど、物事を色々な側面から分析できるようになるよ!ということです。

¶そして教科を横断的に考えることも、人生で様々な問題解決をしていく上ではとても大切だよ!とも以下の文章で書かれています。『子どもにとって授業で扱われるものに連続性や関連性が見て、大切な概念、観点が理解できるようになるとともに汎用性のある思考方法、表現方法を活用できるようになる』と。複数の教科別の指導を合科的に取り扱う『総合的な学習(探求)の時間』や、教科や領域を越えて学習を展開する特別支援学校での「各教科等を合わせた指導」は、①「仕事上手」「生活上手」な子どもを育てるという側面の他にも、②教科別の学習で培った基礎的な学力や「見方・考え方」を「生活の中で活かせるようにする(汎用性のある思考方法、表現方法を活用できるようになる)」という側面の二つの側面があるということです。(※ 出典:学習指導要領)

¶「教科別の指導」の目標を考える際には、「その教科のキーとなる概念(見方)」って何だろう?とか、教科特有の「方法(考え方)」って何だろう?とかをまず念頭に置きながら、目標をブレさせないことが大切(良く見ると複数教科の目標が混在している目標になっている!じゃダメだということ)だと僕も思います(余談ですが、新学習指導要領では教科別の指導と自立活動の目標の併記も基本的には許されていません:総則解説 P188)。タイトルのことをしっかりと意識できると、「合わせた指導」と「各教科の指導」との学習成果の往来の意味なんかも明らかになってきますよね。